

主要事業評価シート(第2次実施計画 / R1・2・3年度)

基本事項	計画コード	事業名		部名	生活文化部		
	19007	し尿処理施設大規模整備事業		課名	環境課 廃棄物対策G		
	施策の大綱	01:快適さを支える生活基盤の向上		財務科目	01:一般会計		
	基本施策	07:低炭素・循環型社会の構築		款	04:衛生費		
	施策の方向	03:廃棄物処理施設の適正管理		項	02:清掃費		
	戦略プロジェクト	-		目	03:し尿処理費		
事業予定期間 R 1 ~ R 11 年度 主な根拠法令要綱等 廃棄物の処理及び清掃に関する法律							
目的・概要	対象	市民、事業者					
	目的	昭和62年に稼働した亀山市衛生公苑し尿処理施設について、「亀山市衛生公苑長寿命化計画書(平成23年度策定)」に基づき、耐用年数を迎える主要な設備・機器の整備を計画的に行い、令和13年度まで稼働できるよう施設の延命化を図る。					
	概要	平成27～28年度に実施した基幹的設備改良工事に続き、今後耐用年数を迎える主要な設備・機器について令和元～11年度に更新・改良工事を実施する。					
事業の計画・実績	年度計画	令和元年度		令和2年度		令和3年度	
		○受入れ貯留設備 前処理機、ブロワ ○一次・二次処理設備 ブロワ ○高度処理設備 オゾン発生装置 ○汚泥処理設備 濃縮機		○受入れ貯留設備 ブロワ、細砂脱水機 ○一次・二次処理設備 ブロワ ○高度処理設備 定量ポンプ、ろ過器用ポンプ 等 ○汚泥処理設備 薬品自動溶解装置・自動給粉装置 ○脱臭設備 脱臭ファン		○受入れ貯留設備 前処理機、ブロワ 等 ○一次・二次処理設備 ブロワ ○高度処理設備 定量ポンプ、オゾン発生装置 等 ○汚泥処理設備 汚泥脱水機、濃縮機 等 ○脱臭設備 生物脱臭装置 ○電気計装設備 中央監視装置	
	年度実績						
	事業費	計画額	事業費	12,300千円	42,600千円	51,600千円	
			国庫支出金				
			県支出金				
			地方債	9,200千円	31,900千円	38,700千円	
			その他				
			一般財源	3,100千円	10,700千円	12,900千円	
		予算額	事業費	11,000千円	24,961千円		
			国庫支出金				
			県支出金				
			地方債	8,200千円	18,700千円		
			その他				
			一般財源	2,800千円	6,261千円	0千円	
		決算額	事業費	11,000千円	24,961千円		
			国庫支出金				
			県支出金				
			地方債	8,200千円	18,700千円		
その他							
一般財源	2,800千円		6,261千円	0千円			
人件費	総人件費	314千円	314千円	0千円			
	一般職員	314千円	314千円	0千円			
	所要人員	0.04	0.04				
	会計年度任用職員等	0千円	0千円	0千円			
総コスト(+)		11,314千円	25,275千円	0千円			
受益者負担率		0.0%	0.0%	0.0%			

				令和元年度	令和2年度	令和3年度	
指標	名称	し尿処理施設 大規模整備工事 進捗率	活動	計画値	3	16	30
		実施済み事業費/総事業費		実績値	3	11	
				単位	%	%	%
	名称			計画値			
				実績値			
				単位			
	名称			計画値			
				実績値			
				単位			

事業の改善	前回評価	【前回評価の対応方針の概要を記入】 長寿命化計画策定後8年が経過し、設備・機器の中には実際の劣化状況と計画での予測が異なるものが生じてきた。長寿命化計画を見直し、設備・機器の実情に応じた効率的な整備に努める必要がある。
	改善行動	【前回評価の対応方針を踏まえ、どのような措置を講じたか】 し尿処理施設精密機能検査業務委託の中で設備・機器の劣化状況の把握に努めた。

		評価	(判定)
事業の評価	活動	【計画どおりに実施できたか】 年度当初の計画のとおり完成した。日々のし尿処理施設の運転管理業務や突発的な修繕と連絡調整を図ることで、日常のし尿処理に支障をきたすことなく完成することができた。	A 計画どおり実施できた
	成果	【成果は順調に上がったか】 当事業により、老朽化して耐用年数を迎えた主要な設備・機器を整備することができ、施設の適正管理と安全安心で効率的なし尿処理が可能となった。	A 十分な成果を得た

今後の対応方針	課題	【課題は何か】 長寿命化計画策定後9年が経過し、設備・機器の中には実際の劣化状況と計画での予測が異なるものが生じてきた。し尿処理施設精密機能検査によりその把握に努めたところであり、軽微なものは順次整備を進めていくが、そうでない設備・機器は長寿命化計画を見直し、それぞれの実情に応じた効率的な整備を進める必要がある。	今後の方向性	☐ 拡大
	対応	【課題に対し、どのように対応するか】 し尿処理施設精密機能検査を踏まえて長寿命化計画の見直しを図り、設備・機器の更新時期や内容を検討する。		☒ 現状維持
	効果	【対応することで、どのような効果が期待できるか】 長寿命化計画を見直すことで、設備・機器の実情に応じた効率的な整備が可能となり、施設の適正管理と安全安心で効率的なし尿処理が可能となる。		☐ 縮小
	対応時期	通年		☐ 廃止
				☐ その他
				【その他の場合、その内容を記載】

【1次評価者】	生活文化部 環境課 廃棄物対策グループ 山際 文則
【最終評価者】	生活文化部 環境課長 村田 博

(参考:前期基本計画期間(H29-R3)における評価履歴)

		H29	H30	R1	R2	R3
判定	活動			A	A	
	成果			A	A	

■ 令和2年度予算額(事業費)の内訳

予算額(事業費)		24,961 千円
内訳	令和元年度からの繰越額	千円
	令和2年度の最終予算額	24,961 千円
	令和3年度への繰越額	千円